

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293300032		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームよしおか		
所在地	千葉県四街道市吉岡1803-5		
自己評価作成日	令和6年 1月 23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和6年3月(文書評価)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その人らしい生活が送れるよう笑顔で寄り添う施設』を理念に掲げ、職員一人ひとりがご入居の皆様
に優しく接し、尊重する姿勢を忘れず安心感を持って生活していただけるよう心がけています。また、季節に合ったイベントの企画を大事にし、利用者様と一緒に生活を楽しめるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が交代して、漸く1年が経過したが、この間コロナ感染者の発生や職員の退職がある等、運営面では厳しい状況が続いている。その中での家族アンケートであつたが、「介護計画の説明と話し合い」「利用者本人は今のサービスに満足しているか」については回答者全員が満足を示し、「職員は生き生きと働いている」などと、概ねホームの運営には一定の満足感を示している。前管理者時代から続いている、職員(ホーム)と家族の信頼関係が構築された結果とも考えられる。しかし、現在は職員数がタイトな状況であり、更には利用者平均年齢が87歳・介護度4以上が半数・車いす・寝たきりが8割と年々重度化が進んできた。職員の負荷も高くなっているが、これらが真価が試される時期でもあるので、家族との信頼感をもとに、全職員で力を合わせた運営に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔で寄り添う施設』をホームの理念に掲げ、とにかく職員は優しい気持ちで利用者様とかかわっていくことを徹底している。	理念は事務所内に掲示、定期的に唱和している。毎日の利用者支援の中で、職員がどのように実践に活かすかを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を今年度より再開して、自治会長や民生委員との関係性が少しずつ築けている。	自治会に加入しており、運営推進会議には自治会長及び民生委員、地域住民に参加いただき、ホームの状況を説明している。コロナ禍以前に参加していた地域の夏祭りなども開催されていない。地域行事が再開されれば参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談が入居申し込みにつながったケースもあり、地域の中で認知度が増している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や自治会長にもご参加いただき、家族からの意見を聞いていただいて、地域イベントの参加の案内もいただいている。	今年度は対面式に切り替えたが、感染者があった9月は書面開催に変更し、6回開催した。家族代表、自治会長、民生委員、訪問介護ST、市高齢者支援課、法人本部、ホーム職員と幅広い。充実した運営報告書をもとに説明し、参加者から多くの意見を頂き、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には推進会議の案内や議事録をお渡しするとともに、家族からの意見があった際には相談させていただいている。	市の窓口は高齢者支援課と社会福祉課である。運営推進会議には市高齢者支援課及び地域包括支援センターの参加もあり、情報交換している。運営推進会議議事録を持参する他、必要な都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束適正化委員会を開催し、各フロアに拘束につながることはないか確認している。	身体拘束廃止に向けての指針と、実施に当たっての手順書を作成している。適正化委員会を定期開催し、確認している。年間研修計画に基づきホーム内研修を2回実施し、身体拘束しないケアの実践に努めている。拘束に該当する事例は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回、社内研修で高齢者虐待について学ぶ機会を設け、言葉使いや態度など『グレーゾーン』になっていないか注意を促している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人を立てている利用者様もおられ、連絡、報告はこまめに行っている。プライバシー保護に関連して権利擁護について3月に社内研修を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前の入居相談の段階で、現在困っていることなどお尋ねし、ホームに入居したらどのような生活を送っていただくようになるかなど、細かく説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を実施しているほか、3月にご家族様にご利用に関してのアンケートを行っている。今年は管理者に対して不信感があるとの厳しいご意見を賜り、適切な人員配置を心掛けている。	ホームの状況を知らせる写真入りの「よしおか便り」と、利用者の顔写真と暮らしぶりを記載した「お知らせ」を毎月家族へお知らせすると同時に電話で説明もしている。アンケートでは「家族の意見をよく聞いてくれる、介護計画の話し合い」等の評価は高い。	訪問回数の少ない方からどのようにして意見や要望を聞くのか、訪問頻度が高い方からの個別要望にどう対応するかなどを、話し合っていたきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットでのカンファレンス、全体会議を行い、職員の意見や提案を発表したり、委員会報告の中で職員が自身で考え自主的に行動できる環境を作っている。	職員とはカンファレンスや職員会議等で定期的に話し合っているが、日常で話し合う事も大切にしている。職員数も余裕がない状況であるので、全職員が参加意欲を持って、協力しあう為にコミュニケーションの良いホームを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厳しい人員基準の中で、時間に追われて介護が作業にならないよう、利用者様とのかかわりを第一に考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	何年か経験を積んだ職員には法人主催の研修を受けていただいている。そんな中で、計画作成を務めていた職員がケアマネジャーの試験に合格することができた。今後の課題として計画作成や管理者候補を育てていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前はGH連絡会があったが、現在は開催されていない。ただ、施設間の連絡は取り合っており、空き情報など共有している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に、必ず本人様、ご家族様の生活に対する希望や要望をお聞きし、介護計画を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの段階で、どのような生活を望むか、適切な介護サービスはどのようなものがあるかなどお伝えし、ホームではどのようなことができるかなどお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や訪問看護、訪問歯科や訪問マッサージなど医療職とも連携し、健康状態に生活が送れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本人の意思を大切にし、やりたくないことや気が乗らないときには無理強いせず、職員を交代したり時間をおいたりして対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には体調の変化など、こまめに連絡し、毎月、お手紙に写真を掲載して生活の様子をお伝えしている。面会時には一緒に外出して下さる家族様もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については、家族様の了解があれば、可能としていて、友人が訪ねてこられる方もいる。また、孫の結婚式にご家族と一緒に出かけられた方もいる。	5類移行後も感染症防止対策のため以前のように外出が出来ない状況である。その為に馴染みの関係は日常的に接している職員や仲の良い利用者同士となり、ホーム自体が一番落ち着く場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のお手伝いやイベントの参加を通じて、利用者様同士でかかわりあえるように努めている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、料金の支払いが困難であるとの相談であったり、入院が長引き、退院のめどが立たないケースなど、できる限り融通している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化が進んでいて思いや意向を把握することが難しいこともありますが、職員にはとにかく『優しく接して』と訴えています。	入所時に家族や介護支援専門員から情報収集して把握している。年々介護度が重くなり利用者自身が思い・希望・体調を訴えることが困難になっている。表情や仕草から読み取り、それらの情報を職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と職員間で顔なじみの関係ができており、調理やレクリエーションなど得意なことに取り組んでいただくことを考えながら、会話を盛り上げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回、各フロアでカンファレンスを行い、情報共有に努め、新しい気付きや体調の変化に留意しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やフロア会議で、介護方法など見直し、利用者が主体性を持てる介護計画になるよう努めています。	6か月に一度、介護支援専門員が中心となり、本人・家族・介護職員・かかりつけ医を集めた「サービス担当者会議」で課題を検討し、それらを基に介護計画を作成している。本人の状態や気持ちに寄り添い分かりやすく、家族を含めたチームで実践する介護計画となっている。	利用者の特性や状態を踏まえて適格なサービス内容が示されており、分かりやすくアイデアが盛り込まれた計画で素晴らしい。長期目標と短期目標の期間が同じになっているのでご検討頂き、計画の見直しに生かせるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや介護日誌も活用し、体調の変化や、ケアでの気付いたことなど、情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と一緒に散歩に出かけていただいたり、定期的に家族との面会で職員の名前を覚えていただいたり、できる限り家族との面会を許容しています。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の拡大が治まってきつつあり、地域のサロンに参加したり、小学校の催しに招待していただけるよう推進会議で地域の方々にご協力いただければと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の訪問診療ののちにご家族様への便りで診療内容や医師からの助言をお知らせしています。緊急性が高い場合は医師から直接ご家族様に連絡していただいています。	ホームのかかりつけ医が定期的に訪問診療を行っており、同医師がホーム斜め向かいの同系列病院内科医を兼任しているので検査や入院など医療を受けることができる。訪問歯科医や訪問看護導入され適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師の巡回があり、職員が看護師に伝えたいことを共有して看護師に報告しています。日々のケアの中で判断に迷ったときには電話で相談させていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	徳洲会病院にかかることがほとんどですが、急な入院に際しては主治医が徳洲会病院に情報を提供して下さり、病院の医師の診察がスムーズにできるよう協力して下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化指針、看取り介護指針の説明を実施するとともに、状態悪化の傾向がみられるときには、早期に本人や家族意向の確認とケア内容の変更を職員間で話合っています。	契約時に重度化した場合や看取り介護の指針（医療的行為が不必要な場合は看取りを行う）や急変時の対応について説明し同意を得ている。状態が重度化した時は医師から説明をしたのち、その後の対応について話合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症が発生した時の対応をガウンやマスクの着用法など、研修で実践しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、職員が危機感をもって災害対策ができるよう取り組んでいます。	5月に自主訓練を行い、1月に消防署による消火訓練を実施した。斜め向かい側にある同系列の病院に地域消防団員がいるので連携できるようにしている。食品と水、衛生用品等を3日分備蓄している。	

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合わせた声掛けや対応を実施しています。入浴や排せつなど、嫌がる方には転倒に注意しつつ過度な干渉はしないよう心掛けています。	「個人情報・プライバシーの保護の取り組みに関する研修」を年間研修計画の中に入れて研修を行っている。排泄介助時に羞恥心やプライバシーに配慮した声掛けを行い、日常的に職員間でも気を付けるようしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の生活リズムを考えながら、自発的にお手伝いやレクリエーションに取り組めるよう声をかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用年月が長くなり、利用者の高齢化・重度化が進んできています。表情や言動から本人の意思を読み取り、ゆったりした気持ちで生活していただけるようかかわっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、着こなしなどには配慮しています。私物に関し、本人からの訴えや日ごろの言動の中で気になるようなことがあれば家族に連絡し相談させていただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に野菜を切ってもらったり、盛り付けをお願いして、自分たちの作った食事ということを意識していただけるよう手伝ってもらっています。	食材業者から提供を受けた調理済食品を利用している。お手伝いの出来る方には味噌汁用の野菜切や盛り付けを手伝ってもらう等、調理への参加意識を持っていただいている。行事食はおはぎ作りやシチュー作りを職員と一緒にし、食事が楽しめるように支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は細かく記入し、医師にも確認していただきながら、必要に応じて栄養剤など処方してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様ができないところはケアしながら、毎食後に口腔ケアを行っています。訪問歯科を利用されている方もおり、口腔の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意が弱くなっている方にも食事後など適宜トイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう取り組んでいます。	日中はトイレ誘導して排泄と状況の確認を行い清潔保持に留意している。便秘気味の利用者には訪問看護と連携して排便コントロールを行い気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促しながら、毎朝の体操に取り組んでいただくよう声をかけています。主治医の指示のもと下剤のコントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴日は固定せず、体調や本人の希望など考慮しながら入浴を支援しています。嫌がられるときには無理せず時間をおいたり、職員を替えて声をかけて、本人が納得して入浴できるよう声をかけています。	週2回の入浴を基本にしている。車椅子を利用している利用者が約8割と多い為、2人対応での入浴介助を行い、安全に入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲労が見える方には臥床を促し、休息がとれるよう配慮しています。夜間も極力睡眠を妨げないよう安否確認を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は担当者が他の職員と薬を確認し、本人の前で名前・日付・いつの薬かを唱和し、誤薬の防止に努めています。薬の変更や追加があった時には職員間で情報を共有して、体調の変化に留意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化・重度化が進んでいるところですが、季節に合ったイベントを行い、楽しみのある生活を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒にコンビニに買い物に出かけたり、人混みが少ない時間帯にスーパーに出かけたりしています。普段外出ができない方にも春のお花見やイチゴ狩り、秋の紅葉などお出かけの機会を作っています。	車椅子の利用者が年々増えているため少人数で花見、イチゴ狩り、コスモス見学にドライブに行っている。秋に近くの公園へ紅葉を見に出かけている。利用者の重度化とコロナ禍のため日常的な外出が困難な状況である。	

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の要望もあり、金銭は基本的には預かっていません。嗜好品の購入などは施設で立て替えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと訴える方には、あらかじめ家族の了解を得て、お電話していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にあった装飾を行い、利用者のレクリエーションで作ったものなども展示しています。	共用空間はわかりやすい配置になっており、清掃や感染症予防対策を職員が行って清潔にしている。リビングに季節の飾りが掲示され明るい雰囲気である。一人でくつろげるようにソファが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしていただいたり、他の方と談笑できるよう席を移動していただいたり、その時々で座る場所を変えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒の予防という観点も持ちつつ、本人が暮らしやすいように家族とも相談しながら家具の配置や掲示物など考えています。	利用者の安全を第一に考えベットと家具類が配置されている。自宅で長年使用していた家具や家族写真、レクリエーション活動時の作品などが飾られており落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに行かれたり居室に戻られたり、その人その人に合わせて、転倒に注意する様に声をかけながら行動を見守り、必要に応じて介助しています。		